

『事業継続に向けた取り組みとこれから』

橋本 祐美 様／島野精機株式会社 総務部
購買 BCM事務局



【会社の概要】

当社は、来年 2020 年に創業 85 周年を迎えます。従業員は約 200 人、お客さまは 22 社、生産拠点は埼玉県に 2 カ所あります。当社の主要製品は、金属をドリルなどで切削加工を行ってつくる車のエンジン部品です。主に乗用車、トラック、トレーラー、農作業機械、計器などに使われ、幅広く納品され活躍しています。

【BCP の取組の経緯】

当社は、業界の中でも多数の機械保有台数を誇り、大きいロット生産を行える工程が強みです。その分、生産が止まると、大手自動車メーカーをストップさせてしまいます。お客様から BCP の照会が多くなり、事業継続は社会的責任を果たすべき義務という考え方から、トップの経営判断により、全社を挙げて BCP に取り組む号令が出ました。

2016 年 9 月に策定を開始し、2018 年 11

月にレジリエンス認証を取得と、約 2 年間という短い期間で体制が整いました。目標は、社会とお客さまに信頼されるパートナーになること、2 週間以内に事業再開、安定供給体制をつくることとしました。基本方針は、企業を支えるのは人であり、従業員とその家族の人命を第一に優先すること、早急に復旧を行い、お客さまとの信頼関係を築くこととしました。

活動には三つのアプローチで取り組みました。一つ目は、一人一人のスキルを向上させ、底上げを行うことで、自分たちの力で事業を継続していく前向きな人材を育成することです。二つ目は、訓練を行えば従業員からさまざまな課題が出てきますので、課題の整理を行い、自社の弱い部分を正しく理解し対策を講じることです。三つ目は、ミーティングや訓練などに 100 パーセント参加することで、従業員と経営者が一丸となり取り組む体制づくりです。

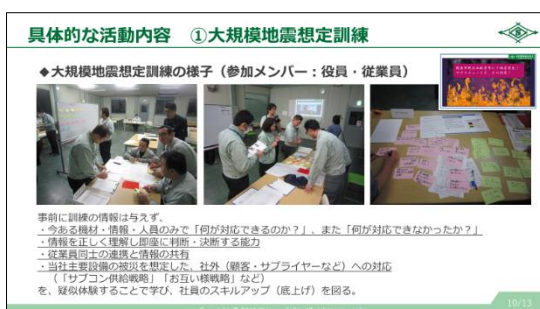


【行ってきた訓練と改善】

当社は過去に大きな災害を経験したことがありません。そこで、従業員に臨場感、危機感を持って取り組んでもらうため、訓練には、大地震の発生したことを想定しました。その理由は、被害が広範囲にわたり、地域の住民、お客さま、協力会社さまも想定でき、停電、主要設備の火災なども想定できるため、初動の模擬訓練を実施しました。

被害を受けた状況をイメージさせ、事業継続していく考え方を意識づけることです。合計4回実施しています。

マグニチュード8の大地震が発生、けが人が発生し、使用設備が被災、お客さまから状況の説明を求める連絡が殺到など、矢継ぎ早に状況が発動されます。何を優先して対応すればいいのかわからず、手も足も出ないような状況。このような無力感を感じる訓練です。従業員から多くの課題が寄せられ、表にまとめ、優先順位を決め、対策を行いました。その内容を再度訓練のテーマに落とし込み、有効性を検証するというPDCAサイクルを確立しました。現在もこのサイクルで訓練を行い、どんどん進化しています。



この活動のおかげで、社内外に変化や効果が表れ始めています。社内では、従業員の意識改革です。日常業務でも積極的に改善を行う姿勢が見られ、業務改善につながっています。社外では、お客さまと深い信頼関係を築けています。新規のお客さまにも生産拠点の信頼性の裏付けに有効であり、自信を持って営業できるとの声が上がり、去年は3社と新規取引が始まりました。BCPの活動が直接関わっているわけではないと思いますが、経営戦略としても有効な活動と考えています。

【今後の目標】

今後の目標としては、従業員の参加率100パーセントを目指し、裾野の広いBCPを目指します。現在の訓練は災害発生後45分間の初動の訓練ですが、今後は発生後2週間の復旧を考慮したBCP訓練を計画しています。また、今の若年層が今後直面する大きな災害に備えて、人材育成を目指しています。

最後に、当社はBCPの取組をCSRの一環として捉えています。お客さまのよいパートナーになれるよう信頼関係を築き、企業価値を高め、社会的責任を果たしていきたいと思っています。